

【サイコパスと暴力団員】

私は、専門分野の1つとして、民事介入暴力事件を取り扱っていますが、担当した事件を振り返りますと、暴力団構成員の中には、いわゆる“普通の人”とは違う個性がある人もいたと感じています。



寄稿者
弁護士 大里定則

暴力団構成員が一般の人に因縁を付け、撲殺してしまったということもあり、そこまでゆかずとも、いざこざの最中に激高することは多々あります。

彼らの中には、感情のコントロールができず、爆発しやすい性質の人がいます。

そして、彼らが世間から恐れられる大きな理由の一つは、この暴力性にこそあります。

私は以前から、このような個性を持つ人の中には、一般社会の中で生きるのが難しい人もいるだろうと思ってきました。

また、反社会的勢力対応マニュアルでも、彼らを相手にするときは常にクールかつ丁寧な対応をすべきと指導しているのは、この感情の爆発を防ぐためなのです。

また、暴力団構成員と会話を交わしていると判ってくるのですが、彼らの中には、平気でもっともらしい嘘をつく人もいます。

その嘘も、いきさつをごまかす為や、自分を大きく見せる為など、多岐に渡ります。

そして、嘘がばれたり、約束を破ったりした場合、謝罪の言葉を述べたりしますが、ちっとも悪いと思わないようで、改めることはせず、相変わらず嘘や約束破りを繰り返します。

このような性質は、最近、ネット等でも取り上げられている、いわゆる「サイコパス」なのではないかと私は考えています。

WHO（世界保健機関）のガイドラインでは、「非社会性パーソナリティ障害」と呼ばれています。

その特徴は、罪悪感の欠如、思いやりの気持ちの欠如、言い訳の巧みさです。

罪悪感が欠如しているので、そもそも自分のやっていることが悪いことだと分かりませんし、(刑務所に入ったりして)一応理解していても、大したことないと軽く考えてしまうのです。

また、他人を思いやる気持ちがありませんので、相手を殴ったり、騙したりしても、悪かったとは微塵も感じないのです。

さらに、常に「言い訳」を考えて生きており、実に巧みに言い逃れをし、告訴される前に自ら警察に説明に行くほど狡猾です。

もちろん、暴力団構成員の全員がサイコパスと知っているのではなく、また、サイコパスは、社会に、暴力団構成員に限らず、様々なトラブルメーカーとして存在していると思いますが、そのような性質を持つ人は、世の中では生き辛くなり、その中には、流れ流れて、暴力団に行き着いてしまう人もいるのかもしれない。

生活や仕事の中で、暴力団構成員の陰がちらつくことがあっても、距離を置くことが肝要ですが、暴対法の効果で、暴力団構成員が減少した反面、暴力団構成員であることが分かり難くなってもいます。

人を差別したり、偏見を持つことは良くないのですが、安全に安心して暮らしていく為の「知恵」として、サイコパス気質を持つ人が一定数いるという事実を念頭に置いておいても良いのではないかと思います。

寄稿者

春日部市中央 1-57-10 2F

春日部法律事務所 ☎048-739-4566

埼玉弁護士会民事介入暴力対策委員会

弁護士 大里 定則

この原稿は、公益財団法人埼玉県暴力追放・薬物乱用防止センターが賛助会員に配信しているメールマガジン「埼玉県暴追センター通信No.160」から編集したものです。